

【実践研究】授業を通して、どう英語学習者を育てていくか

# 全体解説

長沼 君主  
(東海大学)

# 学びに向かう態度？コミュニケーションへの態度？

---

トピック：Eメールか手紙か？【対比型】

使用 プロンプト：どちらがよいコミュニケーション手段か？

改善と変容

自己調整？

学びに  
向かう力

自己効力？

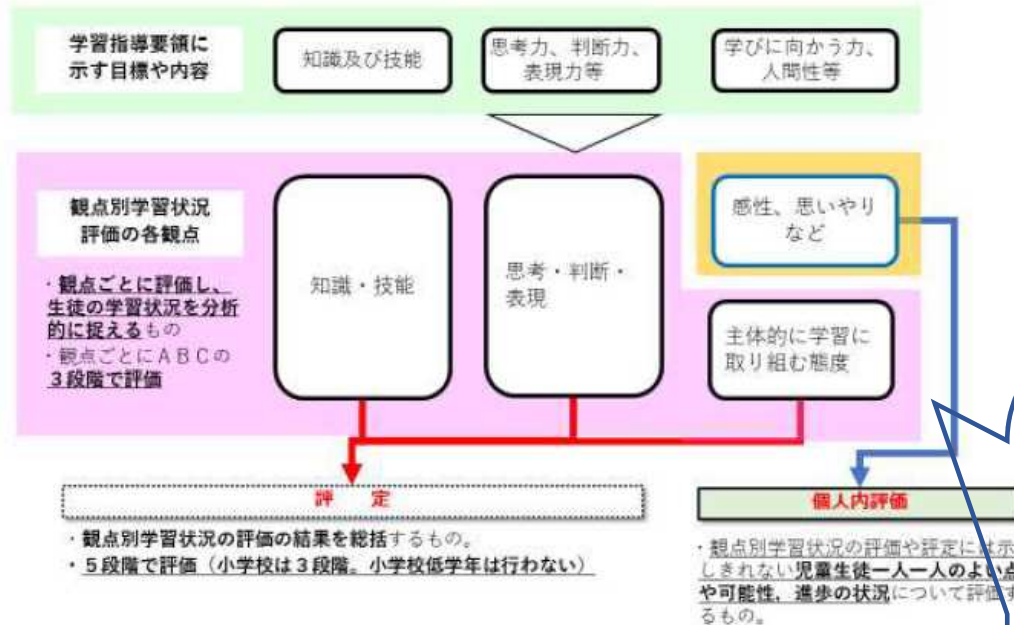
使用 プロンプト：どちらが自分にとって（今後）重要か？

目的・場面・状況の設定と個人化をどう図るか？

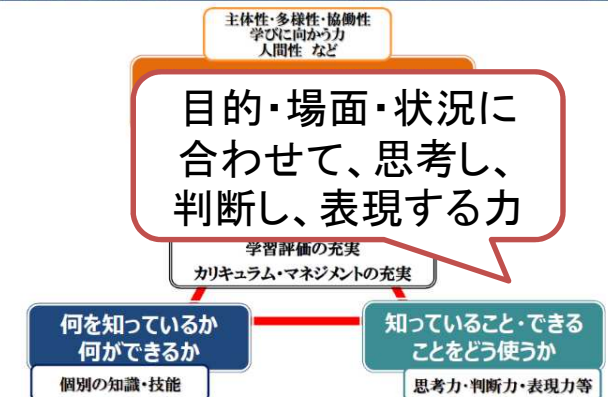
# 資質・能力の三つの柱に基づく観点別評価

## 各教科における評価の基本構造

- 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- 目標準拠評価とはいわゆる絶対評価であり、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。

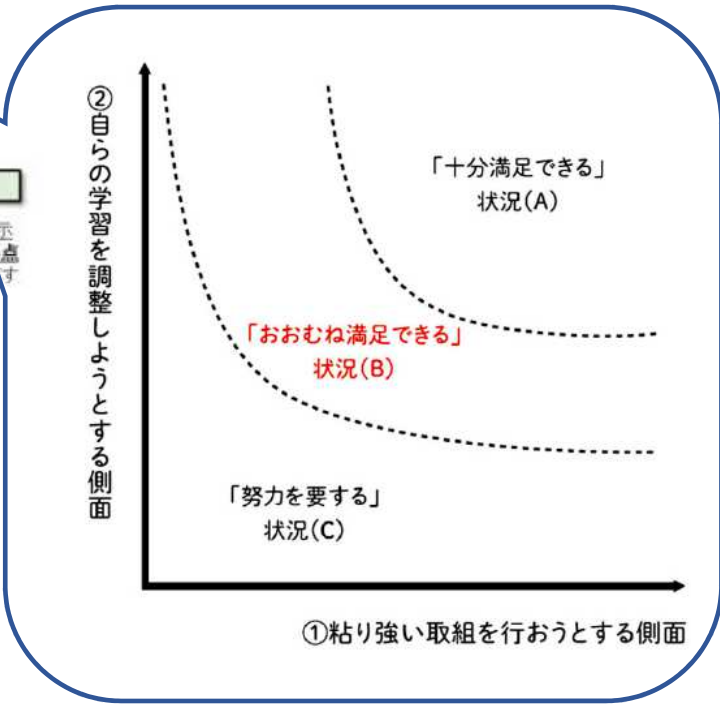


## 育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念

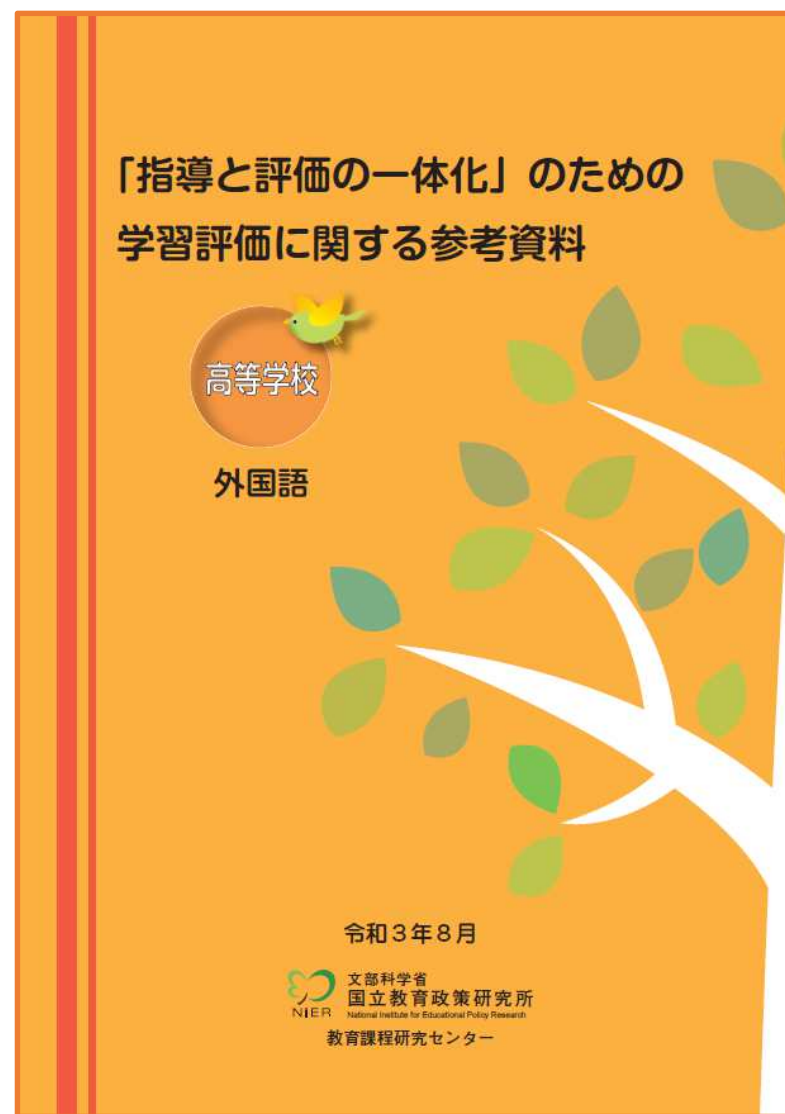
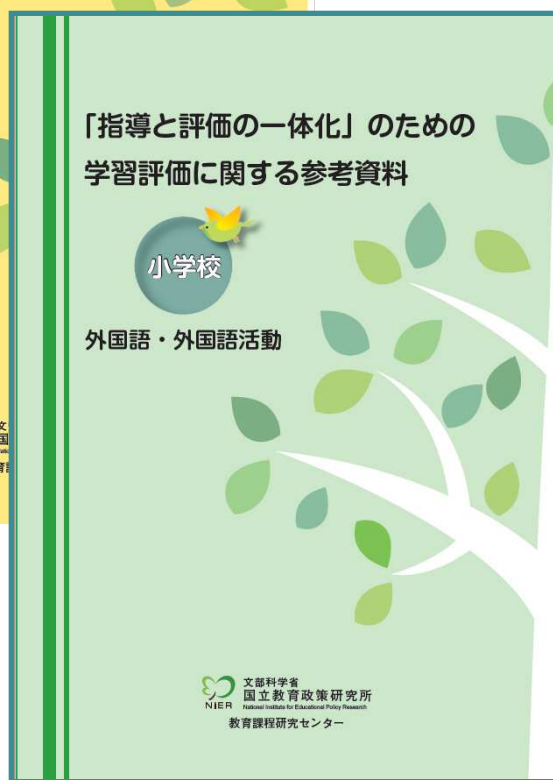
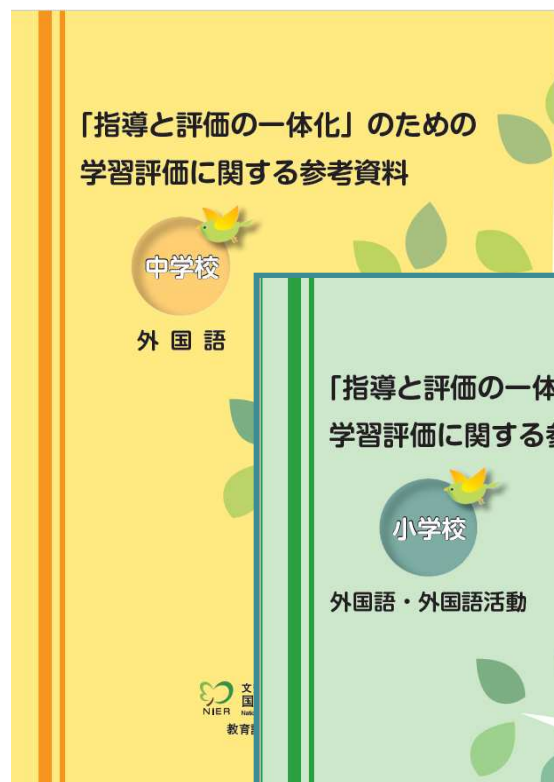


「主体的に学習に取り組む態度」

- Can-Do評価を用いた自己調整学習
- 粘り強さ = 自己実現志向 / L2グリット
- 「コミュニケーションへの態度」 ≒ WTC



# 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

# 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

## 学習評価の意義

### (1) 学習評価の充実

…単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価する → 授業の改善と評価の改善の両輪(一体化)

### (2) カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

### (3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

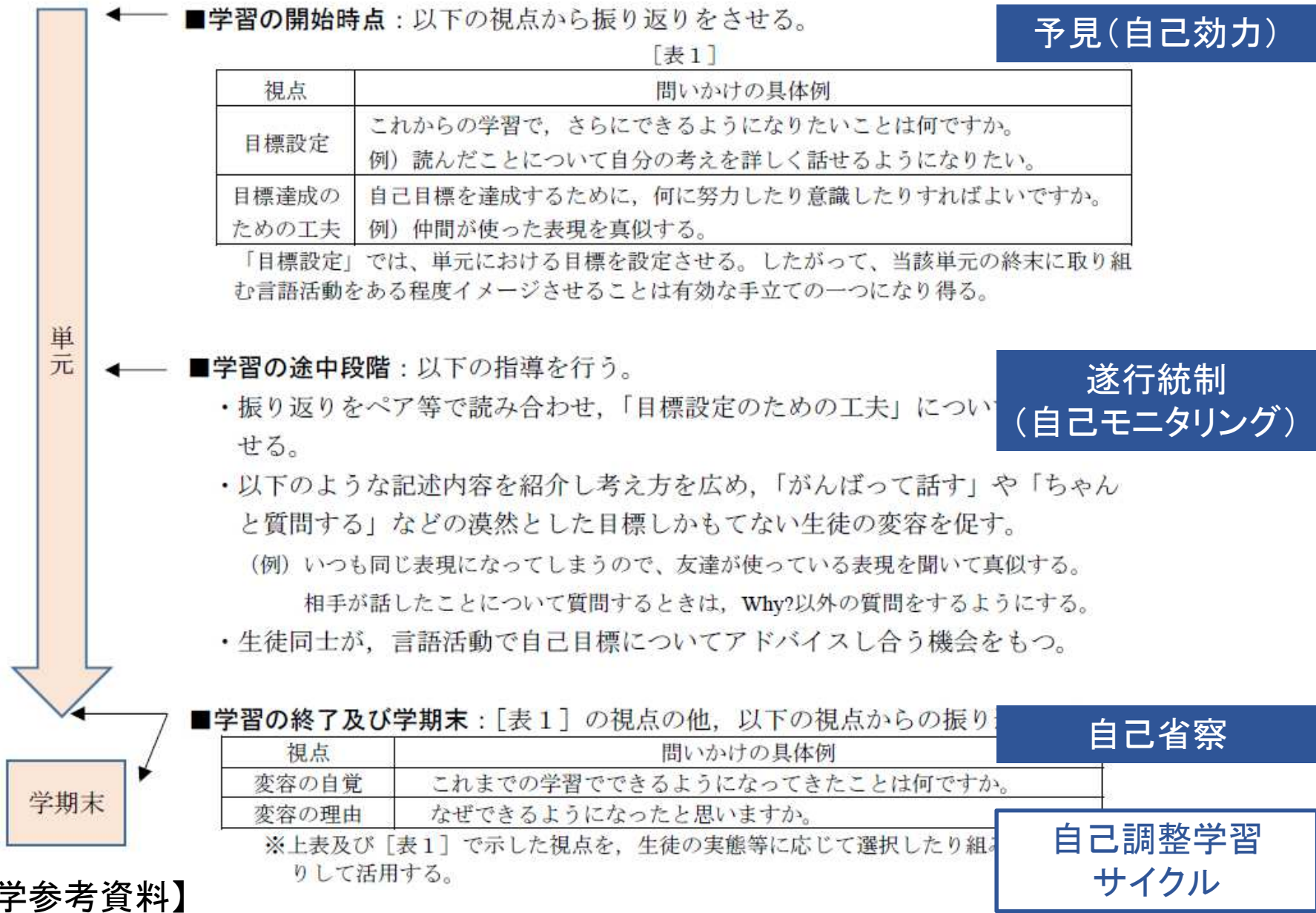
…児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切 → 形成的評価 ⇄ 総括的評価

### (4) 学習評価の改善の基本的な方向性

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

教師自律性  
⇄ 生徒自律性

# 「自己調整」を図ることができるようにするための指導



# 「自己調整」を図ることができるようにするための指導

## 自己省察

観点別評価ルーブリックの共有？  
課題(タスク)達成条件の提示？

(参考) 振り返りの書かせ方

振り返りを書かせる際は、最初から自由記述にするのではなく、例えば次のような様式で実施することも考えられる。□で振り返りの視点を設定して☑を入れさせることには、教師が見届けやすくなったり、同じ視点に☑を入れた生徒同士で交流したりする機会を設けやすくなったりするなどの利点が考えられる。

<p>&lt;振り返りの視点&gt;</p> <p><input type="checkbox"/>.....ですか。</p> <p><input type="checkbox"/>.....ですか。</p> <p>自由記述欄</p>	<p>振り返りの視点を複数個提示し、□にレ点を付けられるようにする。このように、まずは、振り返りの視点から自分を見つめる意識をもたせる。</p> <p>☑を付けたものについて、この自由記述欄に、そのように評価した理由を記述する。</p>
---	--

- ☑ 外国語学習の「見方・考え方」への気付きをどう高めるか？
- ☑ 改善点への個人的関与(オーナーシップ)をどう高めるか？
- ☑ 教師からのフィードバックをどう焦点化・最適化するか？

# 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方

- ①「思考・判断・表現」の評価と一体的にパフォーマンステスト等で行う評価  
➡ **コミュニケーション態度(主体的に言語活動に取り組む態度)**
- ②生徒が自己の学習を調整しようとする状況(自己調整)の観察に基づく評価  
➡ **主体的に学習に取り組む態度(学びに向かう力)**

**My Record of Study**

**【目標】** 単元の学習の最後にできるようになること  
クラス別校外学習の行先の候補を1つ挙げて、興味を持ってもらえるよう、二つの理由とともに他の生徒に説明してください。その際、次のことを目標とします。

- ①聞き手にわかりやすい発音やイントネーションで話す。
- ②提案するための語彙や表現を使って、提案場所の内容を述べる。
- ③クラスメイトが校外学習の行先にしたいと思えるように提案場所に関する二つの理由を詳しく述べる。

**【STEP 1】 目標達成のために何をすればよいか考えよう**  
上記の【目標】を達成するためには、具体的にどのようなことに取り組んだり、どのようなことを意識したりするとよいですか。

↓

**【STEP 2】 現在の状況を確認し、目標に向けて今後何をすればよいか考えよう**

- (1) これまでにうまくできるようになったことを挙げてみよう。
- (2) これまでに取り組んだことで、難しいと思うことは何ですか。それがうまくできるようになるために、今後どのような工夫をしようと思いませんか。

↓

**【STEP 3】 自分が達成できたことを確認して、次の目標を考えよう**

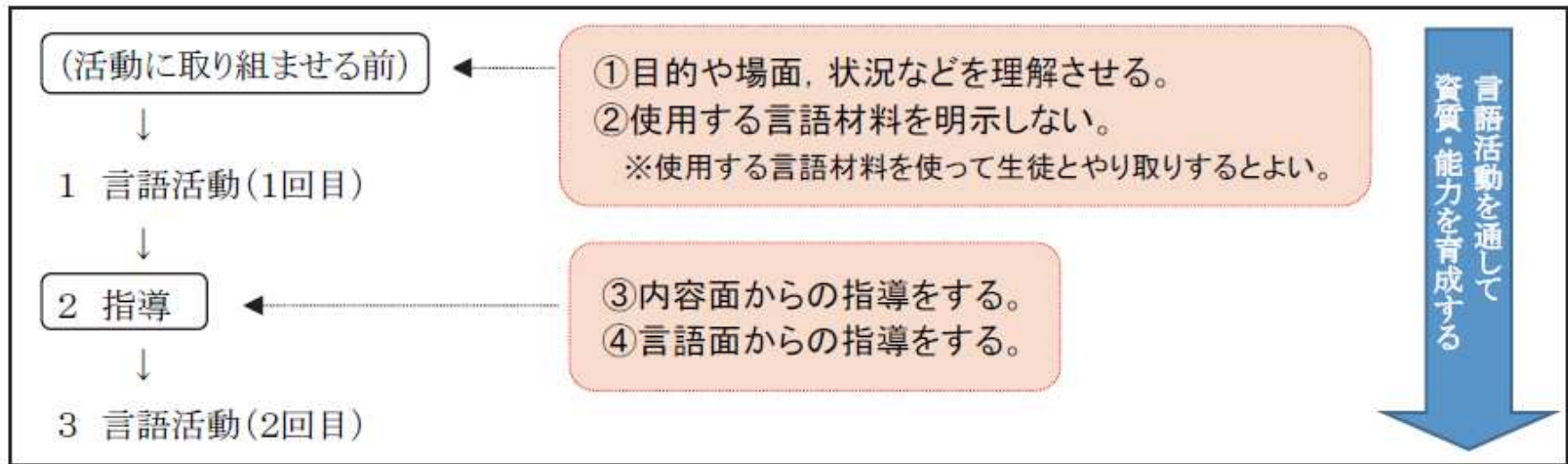
- (1) この単元の学習を通してうまくできるようになったことを挙げてみよう。
- (2) まだうまくできないことがある場合、それができるようになるために、今後どのようなことに取り組み、どのようなことを意識しようと思いませんか。

予見(自己効力)

遂行統制  
(自己モニタリング)

自己省察





【中学参考資料】

↑ 指導観・学習観を変える

**「使いながら身に付ける」**  
…言語活動を通して指導する

**「間違えながら身に付ける」**  
…生徒の誤りは最上の教材

使用が先？  
学習が先？

言語的挫折  
と補償方略

『自分の本当の気持ちを「考えながら話す」小学校英語授業  
—使いながら身に付けるえいご教育の実現—』(日本標準)



## 領域ごとの自己調整を図っていると考えられる生徒の姿の例

聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取れなかった単語を聞こえてきたとおりに自分で発音している。</li> <li>・相手が何を伝えようとしているかを、話し手を意識して予想しながら聞いている。</li> <li>・分からない時には聞き返している。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中で止まらず最後まで読み進めている。</li> <li>・音読することで文字を音声化している。 ※音声化することで、意味を推察することができる場合があるため。</li> <li>・書き手を意識しながら分かった語句から推測して読もうとしている。</li> </ul>
話すこと [やり取り]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が理解したことを確認している。</li> <li>・自分が話したことが伝わったかを確認している。</li> <li>・聞き手を意識して、表現を変えるなど言い直しながら伝え合っている。</li> </ul>
話すこと [発表]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手を意識して、話す内容や話し方を工夫している。</li> <li>・発表後には、友達に感想を聞いている。</li> <li>・自分の発表をタブレットなどで録画し、改善点を見付けている。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手を意識するために、書いたら、友達に読んでもらい、分かりにくい点がないかを確認している。</li> <li>・最後まで書き、その後で、教科書や辞書を使いながら、書き直すようにしている。</li> <li>・書き始める前に、書きたい内容をまとまりごとに分けてメモに書き出している。</li> </ul>

# 主体的・対話的で深い学びと学習方略への教師の支援

---

## Strategy Inventory for Language Learning (Oxford, 1990)

### 直接的(direct)方略

A: 記憶(memory)方略: Remembering more effectively

**B: 認知(cognitive)方略: Using all your mental processes**

C: 補償(compensation)方略: Compensating for missing knowledge

### 間接的(indirect)方略

D: メタ認知(metacognitive)方略: Organizing and evaluating your learning

E: 情意(affective)方略: Managing your emotions

F: 社会(social)方略: Learning with others

自律的学習の基盤となる「メタ認知方略」を支える「情意方略」と「社会方略」

# 主体的・対話的で深い学びと学習方略への教師の支援

## Generic Strategy Classification (O'Malley & Chammot, 1990)

### メタ認知方略 (Metacognitive Strategies)

- ① 選択的注意: Selective Attention
- ② 計画: Planning
- ③ モニタリング: Monitoring
- ④ 評価: Evaluation

### 社会・感情方略 (Social/Affective Strategies)

- ① 協力: Cooperation
- ② 明確化: Questioning for clarification
- ③ 自己対話: Self-talk

### 認知方略 (Cognitive Strategies)

- ① リハーサル: Rehearsal
- ② 体制化: Organization
- ③ 推測: Inferencing
- ④ 要約: Summarizing
- ⑤ 演繹: Deducing
- ⑥ イメージ化: Imagery
- ⑦ 転移: Transfer
- ⑧ 精緻化: Elaboration

方略の共有と  
価値の内在化？

学習方略の選択肢をいかに広げて状況に合わせて使用可能とするか？